

こまつてんまんぐうれんがしよ
小松天満宮連歌書

種 別 県指定文化財 典籍
指定年月日 昭和57年1月12日
所 在 地 天神町（小松天満宮）

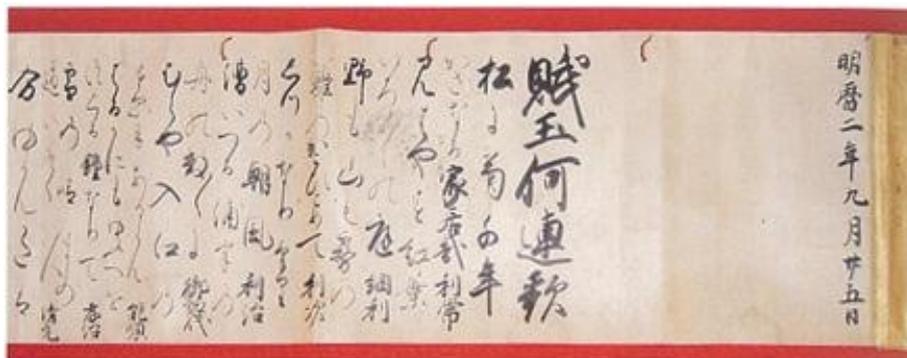
小松天満宮は、前田利常が小松城に隠居の際に創建され、明暦3年（1657）に完成した。その初代別当⁽¹⁾として、利常に招かれたのが能順^{のうじゅん}である。能順は、元は京都北野天満宮に仕え、小松に来た後も京都と小松を往来し、小松に京風の文化をもたらしたことで知られる。また能順は近世連歌の第一人者とされ、小松でも月次連歌会を催すなど、地方連歌の指導に尽くしている。

小松天満宮所蔵の連歌書は、能順の遺愛のもので、その多くは利常の奉納や寄進にかかるものである。

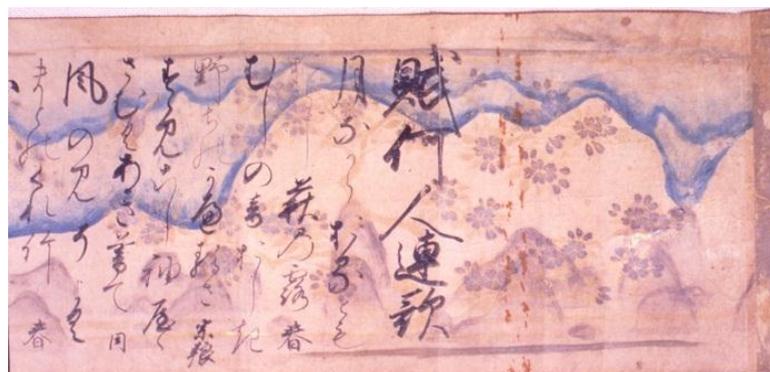
全15点の連歌書は大きく3つに分類される。1つは、宗砌^{そうせい}を中心とする6点である。宗砌は室町中期の連歌界で中心となった人物で、純正連歌の復興に尽くした。2つ目は、連歌を代表する人物・宗祇^{そうぎ}を中心とする6点である。宗祇は宗砌に師事した室町後期の連歌師で、伝統的な句風に中世以降の美意識を表現し、連歌の黄金時代を築いた。そして最後に、能順自らが著した3点である。

これらはいずれも、中世・近世連歌に関する貴重な資料であり、その学術的価値も高いものである。

(1) 別当：神社を管掌する役職の僧侶



『明暦二年利常等玉何百韻』



『竜山宗養両吟何人百韻』